

重点施策2 確かな学力を育む教育課程の編成と実施

【施策方針】

- 確かな学力の定着と向上
- 内面に根ざした道徳性の育成
- 個性の伸長、集団の一員としての自覚及び自主的・実践的態度の育成
- 自ら学び、自ら考え、よりよく問題を解決する能力や態度の育成

【実施状況】

(1) 主な施策・事業

- ① 学習指導
- ② 道徳教育、特別活動、総合的な学習の時間
- ③ 外国語活動(小学校)
- ④ 情報・視聴覚教育
- ⑤ ふるさと教育
- ⑥ 研究事業等

(2) 施策・事業の実施状況

① 学習指導

各校で新型コロナウイルス感染症拡大防止のための対策を講じながら、工夫を凝らした実践が行われた。これまでの実践を基盤とし、一人一台端末と高速ネットワーク環境を活用した授業への取組も2年目に突入し、クラウド型の学習支援ツール「ロイロノート・スクール」や「Google Workspace」を使い、教員は課題や問題を配付し、子どもたちはそれを端末で確認し、学習を進め、学習成果をクラウドにアップしていくといった授業風景が当たり前のように見られるようになった。

市教育研究ではブロックの研究が2年次を迎えた。教科部会では効果的にICTを活用する授業が展開された。人権尊重の理念を基盤にした学力向上を目指す共同研究が推進され、児童生徒に確かな学力と自ら考え学び合う力が育ったことが伝わってきた。

不登校傾向の児童生徒や、新型コロナウイルス感染症対応等で登校できない児童生徒に対して学びの保障の観点から、一人一台端末を活用したオンラインでの授業も積極的に行った。また、修学旅行や自然体験活動の事前の学校間交流や他市町の学校との交流にもオンラインによる一人一台端末を活用するなど、活用の幅は増々広がっている。

また、学校教育活動指導員を、継続して4校(白浜小、神山小、江戸岡小、宮内小)に配置し、人数の多い学級において少人数指導に取り組み、個に応じた学習指導の充実に努めた。

② 道徳教育、特別活動、総合的な学習の時間

市教研の道徳部会は小中合同部会として初年度であったが、授業研究を通して、主

発問や切り返しの発問、思考ツールの活用等についての研究を深めることができた。

総合的な学習の時間部会では、夏季研修会で SDG s に視点を当てた学習指導計画を作成するグループワークを行い、授業実践につながる有意義な研修となった。

③ 外国語活動(小学校)

教育委員会は、ALT 3名、外国語指導助手コーディネーター1名を採用し、小学校の外国語科・外国語活動担当教諭の指導力の向上やALTを効果的に活用した小学校低学年の外国語教育の継続に取り組んだ。また、小中合同部会のよさを生かし、中学校の授業を参観し、経験豊かな中学校教諭の指導方法を学び、小・小、小・中のつながりを大切にしたい研修を深めることができた。

④ 情報・視聴覚教育

夏季実技研修会では、市内で先進的に一人一台端末の導入と活用に取り組んできた学校の実践事例を共有しながら、「効果的な活用」について研修を深めることができた。研修後、GoogleClassroomで「情報主任の部屋」を開設し、継続した情報交換を行っている。

ホームページを活用した積極的な情報発信については、全ての学校で充実した内容になっている。

⑤ ふるさと教育

各校で、地域に受け継がれてきた伝統や文化、地域の歴史などについて調べる学習を行っている。その際、幅広く情報を集め、学習内容について理解を一層深めるよう、公民館やボランティアの協力を得るなど、地域の実状に応じた取組を行っている。

小学校では、市教研社会科部会の教員を中心に作成した「八幡浜の暮らし」を使用し郷土を愛する心を育む学習の充実を図っている。

中学校では、さらに県や大学と連携し、「職場体験」「中学生版の合同会社説明会」「中学生と大学生のカタリバ」を開催し、キャリア教育の充実を図っている。

⑥ 研究事業等

次の学校等が研究指定を受け、教育実践を通して児童生徒の生きる力の育成に成果を上げた。

- 愛媛県環境教育推進事業（松柏中）
- 愛媛県教育委員会人権・同和教育訪問（八代中）
- 通学路安全推進事業（八幡浜市）

【事務事業点検評価委員意見】

- 複雑化する国際情勢や未知のウイルスの感染拡大、急激な気候変動など、これからの子どもたちには「予測困難な時代」を生き抜く力が求められている。そのためには、自ら課題を発見し、仲間と協働しながら解決へ向かっていく力が必要であり、「個別最適な学び」が必要不可欠であると言われている。教育委員会では、「個別最適な学び」を実現するツールとして、一人一台端末をはじめとしたICTの活用を推進しており、プログラミング教育やデジタル・シティズンシップ教育にも積極的に取り組んでいる。今後も、整備されたICT環境を最大限有効活用するために、校内研修や今年度3年次を迎えるブロックの研究、市教研教科部会における実践交流など、教職員の研修を充実させ、令和の日本型学校教育の構築を

目指して新たな学びのスタイルを作っていただきたい。

- 不登校の児童生徒や、新型コロナウイルス感染症等の対応で、やむを得ず学校に登校できない児童生徒へのICTを活用した学習指導がほとんどの学校で定着してきた。一人一台端末の家庭への持ち帰りやオンライン授業、家庭でドリル型学習ソフトウェアの活用など、全ての学校で学びを止めない実践が図られており、これらの取組を教育委員会が積極的に支援している。一人一台端末を家庭に持ち帰った場合に発生しやすい機器の故障も、他市町と比較して最小限に抑えられており、行き届いた指導が実感できる。今後も、不測の事態へ即時対応しながら、オンラインによる学校間交流や他市町の学校との交流、不登校の児童生徒や、やむを得ず学校に登校できない児童生徒へのオンラインによるきめ細やかな支援をお願いしたい。
- 近年、AI・人工知能の技術が発展したことにより、多くの業種でAIが導入されるようになった。私たちの日常生活にもAIが活用されているケースが増えており、非常に身近な存在になりつつある。そのような中、教育分野においても生成AIが活用され始めており、全国的には、すでに授業で取り入れている学校もある。人と会話しているかのように自然な文章で質問に答える「Chat GPT」などの生成AIの教育現場における活用に関して、今年度、文部科学省が初等中等教育段階向けにガイドラインを発表した。ガイドラインの内容を精査し、AIに任せるべき部分と任せるべきではない部分の棲み分けを明確にしていく必要がある。教育委員会には、生成AIの利便性や留意点を明示した上で、教育現場における効果的な活用につながるよう情報収集に努めていただきたい。
- 小学校においては、JTLとALT、外国語指導助手コーディネーターによる外国語活動のチーム・ティーチングが効果的に実施されている。教育委員会に在籍する外国語指導助手コーディネーターが日頃からALTとコミュニケーションをとり、JTLとALT、ALTと児童を円滑につなぐ役割を果たしている。児童は、ALTの専門性を生かしたネイティブの発音に触れ、外国語を学ぶ意欲を高めている。また、出身国の生活や風習、伝統や文化を紹介してもらうことにより、異文化や国際社会への興味・関を高め、視野を広げている。中学校においては、外国語科の授業におけるALTの積極的、継続的活用により、生徒が外国語に触れる機会を充実させ、実際のコミュニケーションの場とすることができている。また、中学校教員が小学校での指導内容を確実に把握し、「聞く」「話す」を中心とした言語活動の充実を一層図るなど、小学校での学びを大切にしながら指導を心掛け、小学校の外国語活動で培った「臆せず外国語を話し、外国語学習を楽しむ」という意識をより一層高めている。今後も、持続可能な小・中連携を図るための研修を、市教研の小中合同部会を中心に継続し、より効果的な小・中連携の在り方について検討していただきたい。
- 本市には、「八幡浜のくらし」という良質な教材があり、これを効果的に活用することが有効である。今年度、八幡浜のくらし改訂委員会により、現在の実態に合った内容へのアップデートが進められており、広く活用を促進していくことが期待される。活用にあたっては、知識を伝達するだけでなく、一歩進んでこの教材をきっかけとして、児童がふるさと八幡浜への愛着や誇りを持ち、よりよく生きるための基盤につながるよう工夫していただきたい。中学校においては、生徒が自立し、自分らしい生き方を実現するとともに、将来にわたりふるさと八幡浜に誇りと愛着を持ち、将来の八幡浜市を担う人材の育成に努めており、県や大学と連携し、「職場体験」「中学生版の合同会社説明会」「中学生と大学生のカタリバ」

などを開催している。また、小学校から高等学校までのキャリア教育の学びを蓄積する「えひめキャリア・パスポート」を有効活用し、校種間での系統的な取組が進められている。今後も、ふるさとキャリア教育に注力していただきたい。

【自己評価】

- 評価委員の意見を受け、「予測困難な時代」を生き抜くための教育の重要性を再認識している。このため、一人一台端末の推進やプログラミング教育など、ICTを効果的に活用する方針を持って取り組んでいく。実践交流や研修を強化することで、ICTの効果的な活用を目指したい。
- 教育の機会均等を目指すため、不登校や学校に来られない児童生徒へのICTを活用した学習指導を進めている。この取組は評価委員からの高い評価を得ているので、サポート体制を更に充実させたい。
- 評価委員の意見を基に、生成AIの教育への導入について検討していく。文部科学省のガイドラインを参考に、AIの適切な活用範囲や注意点を見つけ、教育現場での利用を考えていきたい。
- 外国語活動でのティーム・ティーチングやALTの活用は児童生徒の学習意欲を上げている。評価委員からの意見にもあるように、小・中の連携を強化して、より良い外国語教育を提供していきたい。
- 「八幡浜の暮らし」を中心として八幡浜の文化や歴史を教材に活用して、児童生徒に地域への愛着を育んでいる。キャリア教育も進めており、児童生徒が将来地域社会に貢献する人材として成長するサポートを更に推進していきたい。